

「令和6年能登地震」 支援時の感染対策ポイント

ご支援、お疲れ様です。皆様の温かなご支援を効果的に進めるために、冬季の感染症予防の観点からポイントまとめてみました。皆様のご支援に感謝するとともにその一助になれば幸いです。

被災地は、衛生物品や手洗いの水なども限られ、密になりやすい避難所では体調管理も不十分になりやすく、いつもよりも感染が広がりやすい環境です。支援者が持ち込む場合もあります。支援者も体調管理をしっかりとし、予防のためにインフルエンザや新型コロナワクチンの接種をお勧めします。

1. インフルエンザなどの呼吸器感染症が流行しやすい時期です

原則：持ち込みを避けるために体調がすぐれないときには中止を考慮

- マスク・アルコール消毒（水に限られるため・ビニール手袋も有効）を持参して利用してください。
- 体調不良者は可能であれば受診、また避難所運営者にも報告してください。

2. 細菌性・ウイルス性を問わず、胃腸炎・食中毒は冬季でも発生します

- マスク・手洗いはここでも有効です（先のコロナ対策で胃腸炎が激減しました）
- 手洗いが十分にできなければ、使い捨てビニール手袋やラップ・アルミホイルなどを利用して直接手で食物に触らないようにしましょう。

3. ほこりが舞いやすい環境です

- 埃とともに予期せぬ病原体を吸い込むことがあります。マスクやゴーグルを着用

4. ケガに注意してください

- ガラス・クギ・材木など鋭利なものが散乱しています。厚手の手袋・長靴などを着用してください。
- 破傷風ワクチンは1968年から定期接種になりました。それ以前に生まれたかた、何らかの理由で接種を見送ったかた、また接種から10年以上経過したかた（効果がなくなっている場合があります）は接種をお勧めします。

5. 慣れない場所、混乱・散乱している場所での支援はできる限り、明るいうちに済ませましょう

東北大学災害科学国際研究所
災害感染症学分野
文責：児玉 栄一